

【家庭総合】

＜学習内容について＞

家庭総合では、生活面で「自立」し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい「生活」を創造するために学習します。内容は、衣生活、食生活、住生活、家族、保育、高齢者、消費生活などです。家庭科の学習は、実生活に結びつくものばかりです。自分の生活を振り返ったり、将来のことを想像したりしながら、よりよく生きることについて考えましょう。

＜教材について＞

教科書：『家庭総合 自立・共生・創造』（東京書籍）

副教材：『2026(または 2022, 2023, 2024, 2025)最新 生活ハンドブック資料&成分表』（第一学習社）

＜レポートについて＞

レポートの回数は半期で4回、年間で8回です。

〔前期〕

第1回：第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる

第2回：第8章 住生活をつくる

第3回：第7章 衣生活をつくる ＊特別課題（被服実習）

第4回：第4章 超高齢社会を共に生きる

〔後期〕

第1回：第6章 食生活をつくる

第2回：第6章 食生活をつくる ＊特別課題（調理実習）

第3回：第3章 子どもと共に育つ

第4回：第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む＊特別課題（ホームプロジェクト）

＜学習の進め方について＞

教科書と副教材を使って、レポートを解きましょう。Eテレ「高校講座 家庭総合」を視聴することでより深く学習することができます。（インターネット上では、放送回を選んで視聴することができます）。レポート内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問してください。

また、家庭科は生活での実践が大切です。レポートの内容を、ぜひ生活の中で実践し、生活をよりよいものにしていきましょう。

＜スクーリングについて＞

前期に5時間、後期に5時間のスクーリングへの出席が必要です。教科書、副教材と筆記用具を持ってきてください。基本的には、提出期限日が近いレポート回の内容を行います。また、特別課題のある場合は詳しい説明を行いますので、不明な点がある人は積極的に出席してください。

＜評価について＞

評価は、試験成績と平常点（レポートの成績、実技成績、学習態度等）を以下の観点をもとに総合

して100点法で行い、30点以上を合格とする。

〔知識・技能〕

生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。

〔思考・判断・表現〕

生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を伝承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。